

2018年

8月号No. 90

毎月6日発行



# 原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 茨城平和会館内  
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

原水協通信  
頒価 ¥220/月

核兵器廃絶署名  
37, 筆  
(18.7/30)

## 目的

毎年9月に原水協運動の理解を深めるために最新の私たちの情勢と運動を内容とするテーマで日本原水協などから講師を招聘し、講演会を開きます。同時に、私たちの実践を確認交流し、県内平和行進の参加者、世界大会参加者の報告を交えて、その感想や意見を交流します。

## 日時と場所

9月2日 (日) 13時から17時

講演会 13:30~15:00

交流会 15:15~16:30

まとめ 16:30~16:40

終了 片付け

※ なお、木戸さんを囲んでの交流会(土浦市内)に、ぜひご参加下さい。



講演中の木戸季市氏

講師：木戸季市 (きど すえいち)

プロフィール1940年、長崎に生まれる。1945年8月9日、長崎市旭町(爆心から2km)の路上で被爆。

2016年に被爆者が呼びかけた「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器絶国際署名」では、同署名推進連絡会の事務局メンバーとして活動している。

2017年から日本被団協事務局長。



# 原水協学校に集まりました♪

\*\*\*\*\*



ICAN国際運営委員：川崎哲氏

### 条約署名こそ非核化の道

米朝首脳会談に、核兵器の被害を受ける市民社会の声を届けたかった。

批准国は7月19日現在、ガイアナ、タイ、バチカン、メキシコ、キューバ、パレスチナ、ベネズエラ、パラオ、オーストリア、ベトナム、コスタリカ、ニカラグア、ウルグアイの13カ国です。

「核兵器禁止条約」が採択されて七日で一年、ICANがノーベル平和賞を初受賞しましたが、核保有国及び日本は頑で条約に加わらない。ICANは二〇一九年末までの条約発行を目指し、各国への働きかけを強化していく。

東西冷戦後、5年間で半分減った。朝鮮半島で冷戦が終わるなら、核兵器を持つ理由がなくなる。最終的には韓国、日本が(米国の核の傘に頼らないと)腹をくくれるかどうかだ。(東京新聞7月8日から)

「現実的には非核化は北朝鮮だけではできない。日本は技術もお金も人もたくさん出したほうがいい。それは日本の利益にもつながる。被爆国として、核兵器は悪だと口でいうだけじゃなくて、プレーヤーになるべきだ。」

「核兵器は悪」という認識を決定的に欠いたままの「取引」だ。朝鮮半島の完全な非核化は「取引」ではなく国際法に基づいて行うべきだ。核兵器禁止条約こそCVID(完全かつ不可逆的な非核化)。

## 原爆写真展 (大洗)

□ 台風襲来のおりでしたが…。

実施期間：2018年7月28日(土)~29日(日)

来場者数：28日・午前14人/午後6人(計20人)  
：29日・午前16人/午後12人(計28人)

### ヒバクシャ国際署名

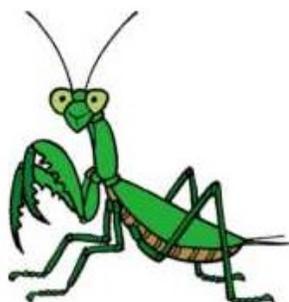
会場での署名数：14筆  
会場に届けられた署名数：7筆  
募金額：3,222円

なお、パネル展は大洗町の広報に掲載されました。

## ヒバクシャ署名 (石岡)

石岡平和の会では本庁舎、並びに旧八郷庁舎にも、ヒバクシャ署名を前回同様設置しました。

今回は前回にもまして長期間にわたり、据え付けました。



## 今月の草花



ビバーナム・スノー・ボール  
ガズミの仲間、樹高1.5~2m7月頃に一見雪玉(アジサイの形)のような真っ白で大きい塊状の花をまとまって咲かせます。咲き始めはやや緑がかかった色ですが次第に純白に。花期も長く、切り花向きです。ウエディング・ブーケ(花嫁が持つ花束)にもよく使われています。  
花言葉：茶目っ気・誓い

# 今年も歩き抜いた13日間

北茨城市～神栖市（6月29日～7月11日）



7月2日(月)茨城町で町長も行進



県庁前集会でコラゴ



山内さんのトランペット、片山さんのアコーディオン、高橋さんの歌唱指導で交流(笠間市友部トモアで)



通し行進者を先頭に(筑西市)

酷暑の中での国民平和大行進、お疲れ様でした。また県内13日間という長丁場の準備は、それぞれのコースで大変な努力がなければ実現できるものではありません。

今年「核兵器禁止条約」の採択の一年後という、記念すべき時期での行進になりました。採択された七月七日は石岡―荒川沖コースに当たり、出発の石岡駅前と土浦亀城公園では記念セレモニーを行いました。

先日、つくばみらい市で日本政府に禁止条約の批准を求める請願が採択され、県内5市町になりました。

最終日の出発地・小美玉市の百里平和公園では、戦闘機の轟音に挨拶の声もかき消されがちになり、毎回のことながら、怒りを掻き立てられました。

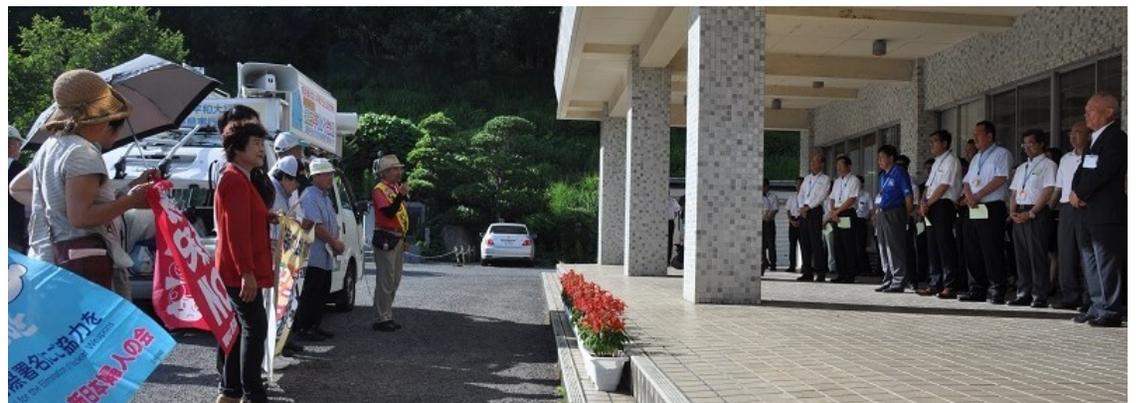
今年の特徴は、行進団にとって最も好意的に接して頂いている自治体が多いことです。ペナント、メッセージ、賛同金だけでなく肩書署名や庁舎内に「ヒバクシャ署名」を設置(大洗・石岡)することや、平和行政の一環として15市町村が中学生を「平和大使」として、広島・長崎に派遣をしています。また、帰着後には感想文の発表の場も設けています。

「原爆と人間」のパネルを自治体が購入し、自らパネル展を開くところもあります。

ただ残念なのは、大井川知事が「肩書署名」をしているにもかかわらず、茨城県の平和行進に完全に後ろ向きで、ペナントやメッセージは勿論、一切を拒否しています。また、「県立」歴史館も駐車場でのスピーカーの使用を拒否。バスなど入っていない時間なのに、バスの駐車箇所には宣伝カーはダメ。力関係を変えないと。



筑西市での歓迎集会で



今年もズラリと並んだ桜川市役所職員の方々



石岡市役所で



小美玉市役所



石下庁舎前で



常総市役所前集会



雨の常総市街地を歩く

核保有国とその同盟国は、「核不拡散体制」の維持への懸念や核兵器禁止条約署名・批准への取り組みを「非現実的」と主張し、依然として「禁止条約」に背を向けたままです。

「核兵器」は、「必要悪」ではなく、国際的にも「絶対悪」であることが当然視され、「悪の烙印」を押されたのです。

核保有国は生物・化学兵器の廃絶を認めながら、何よりも危険で残虐な核兵器の廃絶に反対することは、国際的にも道理がありません。

朝鮮半島の完全非核化を実現するため、日本政府は自らの非核化をすべきでしょう。(柳)

編集後記